

1. めざす学校像

- ・校訓たる「人に愛される人 信頼される人 尊敬される人になろう」に基づき、「相互敬愛・思い遣り」の心を育成する

2. 中期的目標

(1) 近畿大学への進学について

- ① 近畿大学の教育内容の理解について深化を図る
- ② 大学附属校としての教育の更なる充実
- ③ 近畿大学を志望する有為な人材の進学

(2) 生徒指導の徹底

- ① 挨拶・礼儀の重視
- ② 規律ある行動力の育成
- ③ 各個人の権利を尊重し、思い遣りの心・平等の心を育成
- ④ 学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性を伸ばすとともに、相互の友情と連帯感を深める
- ⑤ 生徒会および各種委員会活動の活性化
- ⑥ 愛校心の育成

(3) 学習指導の徹底

- ① 授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める
- ② 校内の全ての教育活動は「グローバル人材の育成」に寄与することを念頭に実施する
- ③ ICTを活用した教育活動を推進し、教育全般の多様性と効率化を追求するとともに、高度情報社会の中に生きる生徒の適応力とモラルの向上を目的とした教育を展開する

(4) 進路指導の徹底

- ① 「大学附属校としての教育」がより充実したものになるよう検討を重ねるとともに、有為な人材が一人でも多く近畿大学に進学できるようにする
【上記(1)に記載】
- ② 特進クラスグループに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格支援
- ③ 各群・各学年・各教科担当者との連携を強化
- ④ 生徒が主体となって適切な学部・学科選択をし、一生の「学び」につながるモチベーションを向上させる

(5) 経営状況の健全化

- ① 帰属収支差額の安定的な黒字化
- ② 受験者数の確保と定員の充足

[以上(1)から(4)の目標を群別・学年制のもと、それぞれが連携しつつ、特色のある教育を展開する]

3. 平成26年度の取組み内容および自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
(1) 近畿大学への進学	<p>①近畿大学の教育内容の理解について深化を図る</p> <p>②大学附属校としての教育の更なる充実</p> <p>③近畿大学を志望する有為な人材の進学</p>	<p>①a)近畿大学各学部の特長・内容の理解[高校]</p> <p>b)近畿大学オープンキャンパスへの参加[高1・2]</p> <p>c)各コースの進路目標にあわせた近畿大学各施設を用いた見学会・体験実習の実施[中学]</p> <p>②a)コミュニケーション力・発信力・主体性の育成[高1]</p> <p>b)平素の授業を通じての基礎学力の定着[高1]</p> <p>③・年間計画に基づく上記①②によるキャリアデザイン構築と進学[高校]</p>	<p>①a)単なる学部説明に終始しない工夫</p> <p>b)近畿大学志望生徒は参加できたか</p> <p>c)近畿大学学園各施設を活用した各コースにあった見学会・体験実習を実施できたか</p> <p>②a1)2年進級時に自らのキャリアデザインを2000字論文に著す</p> <p>a2)iPadを利活用した工夫</p> <p>a3)新しい取組の検討</p> <p>b)各科目定期試験に於いて一定点数以上(素点)</p> <p>③・年間計画の実施と進学者数</p>	<p>①a)理工学部、法学部、薬学部、経営学部、文芸学部、総合社会学部、農学部、経済学部、生物理工学部、建築学部で学部・学科説明の他、模擬講義を実施し、生徒の興味・関心を喚起した(計685名の参加)【○】→次年度も継続して実施する</p> <p>b)8月23日に実施・参加[1080名参加]【○】→次年度も継続して実施する</p> <p>c)近畿大学各施設に於いて年間計画に基づき実施【○】→次年度も継続して実施する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医学部見学・体験実習を実施[中学医薬コース2年] ・医学部奈良病院見学会を実施[中学医薬コース1年] ・医学部堺病院での看護体験実習を実施[中学医薬コース3年] ・薬学部見学・体験実習を実施[中学医薬コース1・2年] ・理工学部エネルギーふしぎ体験を実施[中学全コース1年] ・理工学部実験実習を実施[中学英数コースアドバンスト1年] ・理工学部夢サイエンスを実施[中学英数コースプログレス3年] ・原子力研究所見学を実施[中学全コース希望者] ・生物理工学部実験実習を実施[中学英数コースアドバンスト2年] ・南紀体験学習を実施[中学英数コースプログレス2年希望者][水産研究所に於ける学習を含む] ・近畿大学英語村でのE-Challengeを実施[中学全コース2・3年希望者] <p>②a1)テンプレート3ステップを活用した2000字論文完成、進学コース・6ヵ年課程英数標準コース生徒の作成・提出【○】</p> <p>a2)iPadを用いた校内プレゼンテーションコンクールの開催(進学コースクラス代表による)→優秀賞3名【○】→次年度は6ヵ年課程英数コースプログレスコース4年生に拡大しての実施を検討</p> <p>a3)近畿大学リーダー養成プログラムの次年度実施計画作成</p> <p>b)各科目一定点数未達者→補習・再試験による指導【○】→次年度は一定点数について(素点+平常点)の適用を検討</p> <p>③・近畿大学への現役進学率[対卒業生数]58.5%【平成25年度に比して↑】[平成25年度57.1%]</p>
(2) 生徒指導の徹底	<p>①挨拶・礼儀の重視</p> <p>②規律ある行動力の育成</p> <p>③各個人の権利を尊重し、思い遣りの心・平等の心を育成</p> <p>④学校行事・課外活動を通じ自主性・自発性を伸ばすとともに、相互の友情と連帯感を深める</p> <p>⑤生徒会および各種委員会活動の活性化</p> <p>⑥愛校心の育成</p>	<p>①a)特に朝の挨拶指導の徹底[中高]</p> <p>b)月毎の生活目標を設定[中高]</p> <p>②a)特に登校予鈴時刻までの着席[中高]</p> <p>b)登下校時に於ける通学路の片側通行の指導徹底[中高]</p> <p>③・人権教育室と連携強化し、年間計画に基づく人権教育室発信のワークシートによるホームルームの実施[中高]</p> <p>④a)クラスまたはコース単位での校外学習の実施[高校]</p> <p>b)教科学習とクラブ活動両立および自ら考え率先して行動する指導の徹底[中高]</p> <p>⑤・年間活動計画に基づく[中高]</p> <p>⑥a)近隣に評価される学校作り[中高]</p> <p>b)自校教育推進[中高]</p>	<p>①a)特に朝の挨拶指導の実施</p> <p>b)月毎の生活目標を意識付ける指導</p> <p>②a)予鈴8時25分段階での担任教員による着席確認</p> <p>b)登下校時に於ける重要地点での片側通行</p> <p>③・年間計画に基づき毎学期、学年毎に人権(権利・平等など)に関するワークシートを用いた課題の活用</p> <p>④a)生徒による校外学習の計画立案と実施</p> <p>b)教科学習とクラブ活動の両立および自ら考え率先して行動する指導の実践</p> <p>⑤・年間活動計画の実施</p> <p>⑥a)本校生に対する苦情などについて迅速に問題提起のうえ指導</p> <p>b)クラスグループ毎、年間計画による指導</p>	<p>①a)朝の挨拶【○】→次年度も継続して指導</p> <p>b)意識付けの指導【○】→次年度も継続して指導</p> <p>②a)平成26年度朝のホームルーム遅刻生徒数の激減[高校生10人/日以下、中学生5人/日以下]【○】→次年度も担任教員による予鈴時に於ける着席指導・登下校指導を継続[中高]</p> <p>b)同一ルートを通行する約1000名の生徒が意識し実践する指導を継続実施【○】→次年度も登下校指導を継続</p> <p>③・年間計画に基づき実施し、人権意識の向上に向け指導を継続した【○】→次年度も継続して実施する</p> <p>④a)iPad等を活用した情報収集と、クラスまたはコースの目的に沿った校外学習内容を設定・実施【○】</p> <p>b1)年間を通じ教科学習とクラブ活動との両立を指導【○】[中高]→次年度も継続して指導</p> <p>b2)各クラブ員による挨拶の率先励行と各種学校行事に於ける率先行動【○】[中高]</p> <p>b3)13クラブから336名[体育祭予行準備]、333名[体育祭予行]、228名[体育祭準備]、333名[体育祭]のクラブ部員が率先して連帯のうえ体育行事を成功に導く【○】[高校]</p> <p>⑤・学校行事を含む年間活動計画のとおり実施[中高]【○】、委員会からの斬新な提案の提示までは至らず[高校]【△】</p> <p>⑥a)学年集会、HR活動、iPadを通じて生徒に問題提起・注意・指導【○】→大規模校である本校生徒に対する苦情内容を生徒が理解→次年度も指導を継続</p> <p>b)年間計画のとおり実施【○】</p>
(3) 学習指導の徹底	<p>①授業の質を高め、生徒の授業満足度を高める</p> <p>②校内の全ての教育活動は「グローバル人材の育成」に寄与する</p>	<p>①a)iPadの利活用による新しい授業実践[中高]</p> <p>b)学園内附属学校教育研究会の実施[中高]</p> <p>c)授業アンケートの実施と自己分析[中高]</p> <p>②a)iPadを利活用したe-ラーニングによる英語コミュニケ</p>	<p>①a)下記③の(a)を指標</p> <p>b)学園内附属学校教育研究会への参加</p> <p>c)生徒の満足度80%以上</p> <p>②a)通信環境があれば「いつでも・どこでも」学習できることを周知し、担任教諭は担任クラス生徒の進捗状況を確認</p>	<p>①a)下記③の(a1)～(a3)のとおり</p> <p>b)12名の教員参加[講演会・授業見学等による意見交換・情報収集]【○】→次年度も継続して参加する</p> <p>c)授業満足度(肯定的回答率)・86.0%【○】[中学校]、88.7%【○】[高校]</p> <p>②a)第3学年時にシルバーレベルまで取り組めるよう指導→平成26年度末の進捗状況[80%]【△】</p> <p>b)大変満足であった[94%]満足であった[6%](事後アンケートによる)</p>

	<p>ことを念頭に実施する</p> <p>③ ICTを利活用した教育活動を推進し、教育全般の多様性と効率化を追求するとともに、高度情報社会の中に生きる生徒の適応力とモラルの向上を目的とした教育を展開する</p>	<p>ーション力の育成[高1]</p> <p>b)グローバル人材育成プログラムの実施[高校]</p> <p>c)エンパワーメントプログラム構想の具体的検討[高校]</p> <p>d)アクティブラーニングの研究と採用[高校]</p> <p>e)年間計画に基づくTOEIC[高校]及びTOEIC Bridge[中2・3、高]の校内実施</p> <p>f)年間計画に基づく海外語学研修・海外留学[高校]</p> <p>③a)授業・学校行事等高校生活に於ける様々な場面でのiPadの利活用および教員の創意工夫によるプロジェクト型学習・反転授業・iTunes U等による授業改革の実施[中高]</p> <p>b)生徒の自主性・積極性の育成[中高]</p> <p>c)情報ネット社会に於けるいじめ・人権侵害に係る年間計画による指導[中高]</p>	<p>b)U.C.バークレー校で実施</p> <p>c)平成27年度実施に向け、実施形態・内容について精査</p> <p>d)アクティブラーニングによる課外授業実施</p> <p>e)年間計画で実施</p> <p>f)年間計画で実施</p> <p>③a)教職員によるiPad利活用内容</p> <p>b)生徒の取組み</p> <p>c)年間計画による指導実践</p>	<p>e) U.C.バークレー校の学生を本校に招聘して実施するエンパワーメントプログラムの次年度8月実施を決定【○】</p> <p>d)スイッチ・スプリングセミナーの実施【○】[近畿大学入学予定者対象]</p> <p>e)年間計画のとおり実施・TOEIC Bridgeを中学2・3年にも実施【○】→次年度も継続して実施</p> <p>f)年間計画のとおり実施【○】→次年度タスマニア、アイルランドでの6ヶ月留学実施を検討</p> <p>③a1)「～いつも、となりに、学校が～One on One」の活用内容が評価され、Apple社から本校がApple Distinguished Program 2014-2016に認定[2015.1]【◎】[高校]</p> <p>a2)2015年度Apple Distinguished Educatorに4名の教員が選出[2015.4]【◎】[高校]</p> <p>a3)学外教育関係者対象にICTオープンスクール開催・本校での実践事例を紹介(200名の参加)【○】[中高]→次年度も継続して実施する</p> <p>b)各クラス2名(高1)のICT委員および中学生が中高オープンスクール「iPad体験」で受験生および同保護者にiPad利活用について説明【○】→次年度も継続して実施する</p> <p>c)ケータイ教室[中1]、SNS講習会[中2]、インターネットモラル教室[高1]の開催とHRでの指導【○】→次年度も継続して実施する</p>
<p>(4) 進路指導の徹底</p> <p>[但し、①については、中期的目標の(1)に記載する]</p>	<p>② 特進クラスグループに於ける(難関)国公立大学志望者への進路指導の徹底と合格</p> <p>③ 各群・各学年・各教科担当者との連携を強化</p> <p>④ 生徒が主体となって適切な学部・学科選択をし、一生の「学び」につながるモチベーションを向上させる</p>	<p>②・下記の③④を年間計画[高校]</p> <p>③・年間計画に基づくナビゲート[高校]</p> <p>a)特進クラスグループの学年単位・学級担任単位の経験交流とチームとしての指導力強化</p> <p>b)研修会や説明会を通じて生徒の目標達成のフォロー</p> <p>c)過年度生へのフォロー体制の確立</p> <p>④・教員が国公立大学進学情報、在籍生徒の成績分析結果および志望状況に関する情報を共有化した上での細かな進路指導を実施[高校]</p> <p>また、生徒自身が将来像を描き進学目標を定められるよう、講演会の実施や進学イベントへの参加促進を年間計画に基づき実施[高校]</p>	<p>②・合格実績</p> <p>③・年間計画に基づく実施</p> <p>④・年間計画に基づく実施</p>	<p>②・難関国立10大学・国公立大学医学部医学科・大阪市立大学・大阪府立大学合格者数計66名(含過年度生)[北海道大学2名・東北大学1名・東京大学1名・京都大学5名・大阪大学19名・神戸大学9名・大阪市立大学16名・大阪府立大学12名・奈良県立医科大学医学部医学科1名]【対前年度26名↑】</p> <p>・国公立大学合格者数(含過年度生)計148名【対前年度18名↑】</p> <p>③・年間計画に基づいて実施【○】</p> <p>a1)各種学外入試研究会への参加と情報収集</p> <p>a2)模試分析報告会の実施[7月](特進クラスグループ担任対象)</p> <p>b1)入試結果報告会[7月](高2・3年希望保護者対象)[360名参加]</p> <p>b2)入試動向説明会[9月](高3年希望生徒・保護者対象)[190名参加]</p> <p>b3)大学入試動向説明会[11月](高3年希望生徒対象)[140名参加]</p> <p>b4)センター試験利用大学出願説明会[1月](3年希望生徒対象)[160名参加]</p> <p>c)過年度生激励会の実施[12月][10名参加]</p> <p>④・年間計画に基づいて実施【○】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内進路資料の作成 ・国公立大学講演会を実施[8月](教員対象) ・校内LANによる各種学外研究会内容の周知 ・進路志望調査の実施[4月](高2・3全生徒対象) ・進路志望調査の実施[5月](高1全生徒対象) ・進路適性検査Rキャップの実施[6月](高1全生徒対象) ・大阪大学外国語学部講演会・現役大学生との交流会実施[6月](50名の参加) ・京都大学進学講演会の実施[6月](130名の参加) ・夢ナビライブ参加(模擬講義や教授との進路相談など、進路を考えるイベント)[6月](100名の参加) ・キャリアガイダンスの実施[7月](高1全生徒対象) ・一日看護師体験の実施[7月](高2・3生25名参加) ・マイナビ進学FESTA大阪(大学進学と将来を考えるイベント)[7月](高1・2年100名参加) ・進路志望調査の実施[9月](高1・2全生徒対象) ・神戸大学進学講演会[9月](120名参加) ・夢ナビプログラム(関心ワードから大学で学ぶ専門を探すアンケート)[10月](高1年全生徒対象) ・大阪市立大学入試講演会・卒業生との交流会の実施[11月](70名の参加)

<p>(5) 経営状況 の健全化</p>	<p>① 帰属収支差額の 安定的な黒字化 ② 受験者の確保と 定員の充足</p>	<p>①・ICT教育環境の整備を引き続 き行い、全生徒が問題なくタ ブレット端末を利活用でき るようにし、新たな整備のた めに、従来からの情報系保 守・運用管理費用の削減を行 う[中高] ②・安定的な収入を確保するた め、生徒募集を強化し、受験 者の確保、定員の充足に努め る[中高]</p>	<p>①・決算での帰属収支差額の黒字化 ②・受験者数の対前年度増と定員の充 足</p>	<p>①・平成26年度決算で、黒字化を達成する【○】 ②・対前年度受験者数 高等学校461名増【◎】、中学校 83名増【○】 学則に於ける生徒定員を充足【○】[中高]</p>
------------------------------	--	--	---	---